



橋北小学校
学校だより
No.11
学調特集号
令和3年9月29日

5月27日に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。この調査は、全国の6年生を対象に5年生までの学習内容の定着と、学習や生活の状況を調査するものです。昨年度は実施できませんでしたので2年ぶりの実施になります。今回の結果から見えてきた本校の学力の状況(強みや弱み)、課題とその改善策等についてお知らせします。

1 学力の状況(国語・算数)

本校の平均正答率は、国語・算数ともに全国平均の正答率を下回る結果となりました。各教科の領域別の結果と強み(○)弱み(▼)は次の通りです。

*国語

領域別にみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均程度、「話すこと・聞くこと」は全国平均をやや下回る程度でした。特に弱さが見られた領域は「読むこと」「書くこと」でした。

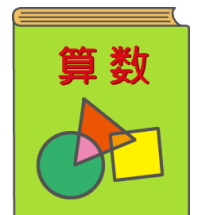
- 述語に対して適切な主語を選ぶ。
- 目的に応じ、話の内容が明確になるようスピーチの構成を考える。
- 目的に応じ、文章と図形とを結びつけて必要な情報を見つける。
 - ・漢字を文の中で適切に使う。○「転がっている」 ▼「原因」 ▼「積み重ね」
- ▼文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。
- ▼自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。
- ▼目的や意図に応じ、資料を使って話す。
- ▼目的や意図に応じて、理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- ▼目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する。

正答できなかった問題を具体的にみていくと、「目的や意図に応じて文章全体の構成を捉える力」が弱いことがわかります。文章に接するときには、ストーリーを追うことに加え、筆者の目的や意図をくみ取り、どのように文章を構成したり資料を引用しているかなど「全体の構成」を捉えることも求められます。そのためにも、より多くの文章に触れることが必要です。

*算数

領域別にみると「測定」「データの活用」は全国平均程度、「数と計算」は全国平均を下回りました。特に弱さが見られた領域は「図形」「変化と関係」でした。

- 道のりの差の求め方と答えを記述する。
- 50分後の時刻を求める。 ○棒グラフから数量や関係を読み取る。
- 図形の面積を比べる。 ○割り算の結果を日常生活の場面に置き換えて判断する。



- ▼500mを歩くのに7分間かかることをもとに、1000m歩くのにかかる時間を求める。
- ▼速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ。
- ▼分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める。
- ▼直角三角形の面積を求める。
- ▼8人に4Lのジュースを等分し、一人分のジュースの量を求める。

- ☆「文章の全体の構成を把握する力」を高めるために、より多くの文章に触れることが必要です。学校での読書活動については、読書週間はもとより、家庭とも協力して日常から本に触れる機会、読んだことを交流する機会をさらに設けていきます。
- ☆条件や字数を設定し、その条件内で自分の考えをまとめる活動を取り入れていきます。
- ☆速さや図形に関する問題は、図や数直線などを用いて考えさせ、基礎的事項が確実に習得できるようにします。
- ☆家庭学習で、自分の苦手なところを意識して学習できるよう、タブレットドリル等を用いて苦手さに応じて反復練習をさせたり、自主学習の進め方を個別で指導していきます。

2. 学習や生活の状況

*自分自身について

- 「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答は、全国平均をかなり上回っており、本校の課題である「自己肯定感の低さ」については、本校6年生は、十分に克服できていることが伺えます。

*学校生活について

- 「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」「道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合はとても高いです。
- 「友だちと協力するのは楽しい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は全員の児童が「あてはまる」と回答しました。
- ▼「自分の考えをまとめたり思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っている」「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」に当てはまると回答した児童の割合は全国平均を下回りました。

学校生活では、学級での話し合いを生かして学校生活をよりよくしようと意識して取り組んでいる一方で、話し合いによって、自分の考えが深まったり広がったりしているという実感はやや低いようです。

- ☆話し合い活動では、相手の思いや考えをよく聞き、自分の思いや考えをもとに比べたり、自分の考えがどのように変わったかを伝えるなどさらに議論を深められるように働きかけていきます。

裏面もご覧ください

*生活習慣・携帯電話・ゲームについて

- ▼基本的な生活習慣「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」に、「どちらかといえばしている」と回答した児童が多く、「(必ず)している」と回答した児童の割合は全国平均を下回っています。
- ▼「携帯電話・スマホなどの使い方について家の人と約束したことを守っている」に、「きちんと守っている」と回答した児童は全国平均を下回り、「あまり守っていない」と回答した児童の割合がかなり高い結果となりました。
- ▼「平日にどれぐらいの時間ゲームをするか」に4時間以上と回答した児童の割合が全国平均よりかなり高い結果となりました。

*家庭での学習や読書の習慣について

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「平日に1時間以上勉強をしている」と回答した児童は全国平均をかなり上回り、家庭で一定の時間学習する習慣は身につけてきています。

▼「1日当たりどれぐらいの時間読書をしますか」に「1時間以上」と回答した児童は全国平均と同じぐらいでしたが、「10分より少ない」「全くしない」と回答した児童の合計が半数を超えています。読書習慣がついている子とついていない子との読書時間の差が大きくなっています。



「家庭学習の時間が全国平均より多い」「家庭での読書時間が全国平均よりかなり低い」という傾向は、平成30年度、令和元年度の調査でも全く同じ傾向が示されています。

家庭学習については「時間」だけではなく「質」(自分の苦手さを補う、さらに発展的な学習をする、自分が興味あることを深く追及する、連続性のある学習に取り組むなど)を高めていくことが次の課題です。家庭読書については、全校で意識して取り組んでいくことが求められます。

【ご家庭で協力をお願いしたいこと】

☆基本的な生活習慣「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」「ゲームやスマホをしている時間」について、お子さんと一緒に見直しやふりかえりをお願いします。不十分なところ、できていないことがあれば、お子さんが自ら意識して改善に取り組めるよう働きかけてください。

☆家庭学習は、学校で出された課題にとどまらず、自分で学習課題を選んで学習をすすめる自主勉強に積極的に取り組めるように声掛けをお願いします。

☆家庭読書の習慣が身につくよう、ご家庭で時間や期間を設定したり、10月の「ノーテレビ・ノー携帯デー」や「読書週間」の取り組み期間を活用して取り組んでください。